

2023年10月31日
株式会社日本政策金融公庫

持ち直しの動きがみられる生活衛生関係営業の景況

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2023年7～9月期）

（前回）持ち直しの動きがみられる生活衛生関係営業の景況

<業況判断DI>（2ページ）

- 業況判断DIは、前期から12.0ポイント低下し、8.9となった。
- 来期は3.1ポイント低下し、5.8となる見通し。

<売上DI>（3ページ）

- 売上DIは、前期から3.8ポイント低下し、23.5となった。
- 来期は4.3ポイント低下し、19.2となる見通し。

<採算DI>（4ページ）

- 採算DIは、前期からマイナス幅が0.3ポイント縮小し、▲1.4となった。

<経営上の問題点>（9、10ページ）

- 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が54.6%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」（37.3%）、「従業員の確保難」（22.5%）の順となった。

※ 11ページ以降に業種ごとの業況判断理由を掲載しています。そのほか、本調査で収集した「経営取り組み事例」を日本公庫ホームページに掲載しています（https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu_kekka_m_index.html）。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部 生活衛生情報支援グループ TEL03-3270-1653（担当：守屋、和知）
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

【調査の実施要領】

調査時点	2023年9月中旬		
調査方法	郵送調査		
調査対象	生活衛生関係営業 3,290 企業		
有効回答企業数	3,141企業（回答率 95.5%）		
（業種内訳）	飲食業	1,452 企業	映画館 57 企業
	食肉・食鳥肉販売業	150 企業	ホテル・旅館業 183 企業
	氷雪販売業	54 企業	公衆浴場業 111 企業
	理容業	416 企業	クリーニング業 261 企業
	美容業	457 企業	

【本調査における留意事項】

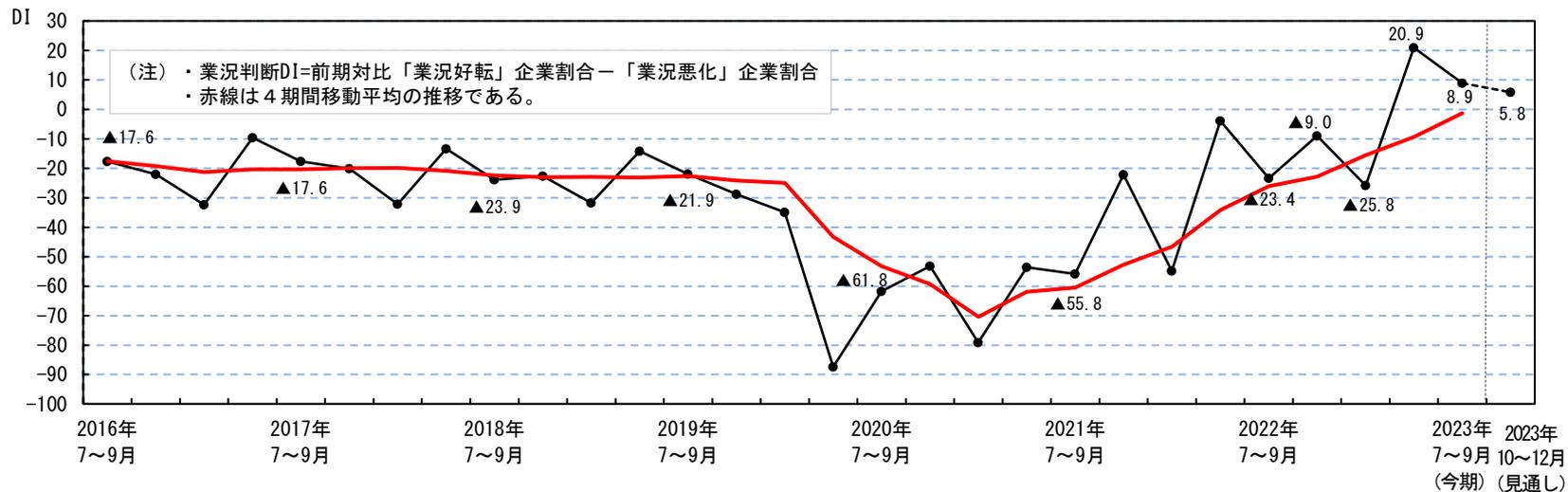
- 2016年4～6月期調査から沖縄県の企業を調査対象に加えている。
- 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

I 景気の動向

1. 業況判断

- 業況判断DIは、前期から12.0ポイント低下し、8.9となった。
- 来期は3.1ポイント低下し、5.8となる見通し。

図表1 業況判断DIの推移（全業種計）



図表2 業種別 業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月	2023年 7～9月 (今期)	2023年 10～12月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 24.3	▲ 6.5	▲ 22.4	15.8	▲ 1.3	▲ 3.3
氷 雪	31.5	▲ 23.6	▲ 21.8	35.7	61.1	0.0
理 容	▲ 24.8	▲ 30.2	▲ 36.8	▲ 2.6	▲ 2.6	▲ 6.7
美 容	▲ 22.9	▲ 23.4	▲ 33.8	▲ 0.7	▲ 7.4	▲ 1.1
映 画 館	38.3	9.8	11.3	49.2	▲ 15.8	▲ 15.8
ホテル・旅館	23.3	50.6	▲ 3.4	58.5	45.9	13.1
公衆浴場	▲ 30.9	▲ 15.2	▲ 9.1	▲ 2.7	▲ 7.2	▲ 0.9
クリーニング	▲ 46.6	▲ 12.9	▲ 52.5	26.6	▲ 21.1	1.1

図表3 飲食業 業況判断DIの推移

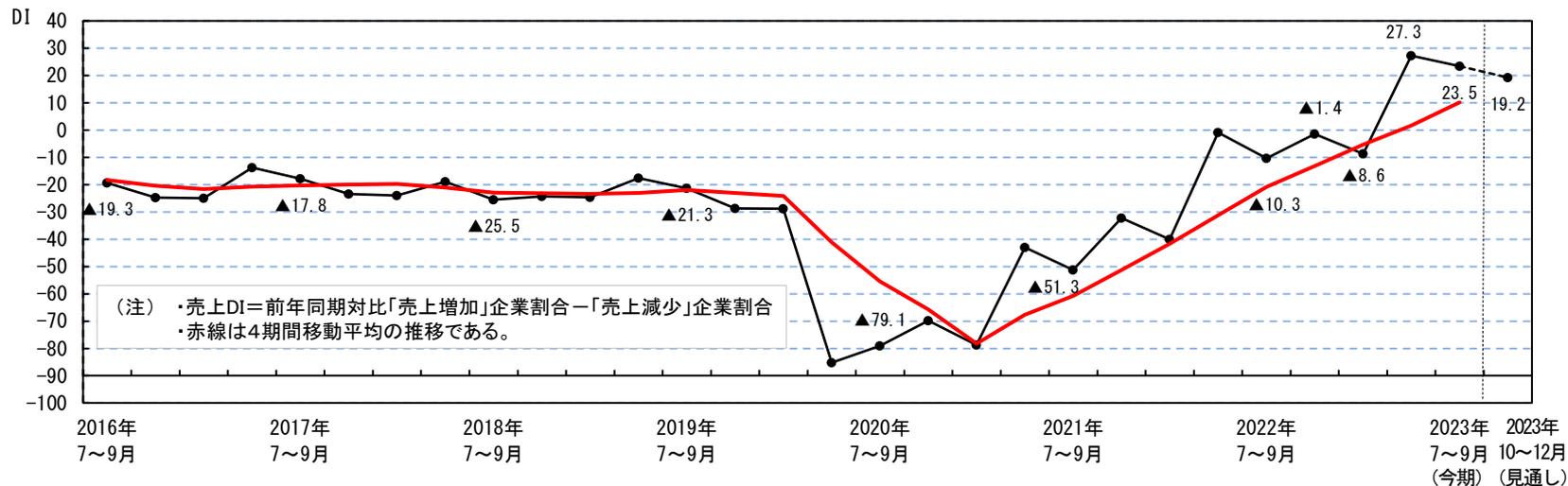
凡例	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月	2023年 7～9月 (今期)	2023年 10～12月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 28.7	▲ 4.9	▲ 21.3	29.2	19.4	14.0
そば・うどん	▲ 4.9	▲ 10.1	▲ 23.5	29.8	24.6	17.5
中華料理	▲ 20.6	1.9	▲ 13.8	23.0	14.5	11.8
す し	▲ 29.7	▲ 6.4	▲ 30.9	24.6	15.6	8.9
料 理	▲ 39.4	8.3	▲ 13.7	49.2	29.3	17.1
喫 茶	▲ 29.0	▲ 10.3	▲ 7.0	32.9	18.2	6.5
社 交	▲ 56.0	▲ 27.9	▲ 42.4	13.2	8.3	14.1
その他飲食	▲ 25.3	4.0	▲ 16.8	33.5	23.1	17.2

※ 表中の網掛けは、全業種計の割合を上回るものを表す(以下同じ)。

2. 売 上

- 売上DIは、前期から3.8ポイント低下し、23.5となった。
- 来期は4.3ポイント低下し、19.2となる見通し。

図表4 売上DIの推移（全業種計）



図表5 業種別 売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月 (今期)	2023年 10~12月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 15.8	0.0	▲ 5.4	24.7	13.4	22.8
氷 雪	▲ 40.7	27.3	16.4	46.4	64.8	35.2
理 容	▲ 22.4	▲ 26.0	▲ 29.9	▲ 1.7	0.7	▲ 1.4
美 容	▲ 23.1	▲ 22.3	▲ 23.9	0.0	▲ 3.9	▲ 0.4
映 画 館	50.0	27.9	21.0	54.1	▲ 7.0	▲ 3.5
ホテル・旅館	48.3	62.6	42.0	62.6	59.0	38.8
公衆浴場	▲ 25.5	▲ 6.3	▲ 6.4	12.5	5.4	4.5
クリーニング	▲ 21.4	▲ 8.7	▲ 34.7	19.3	8.0	4.2

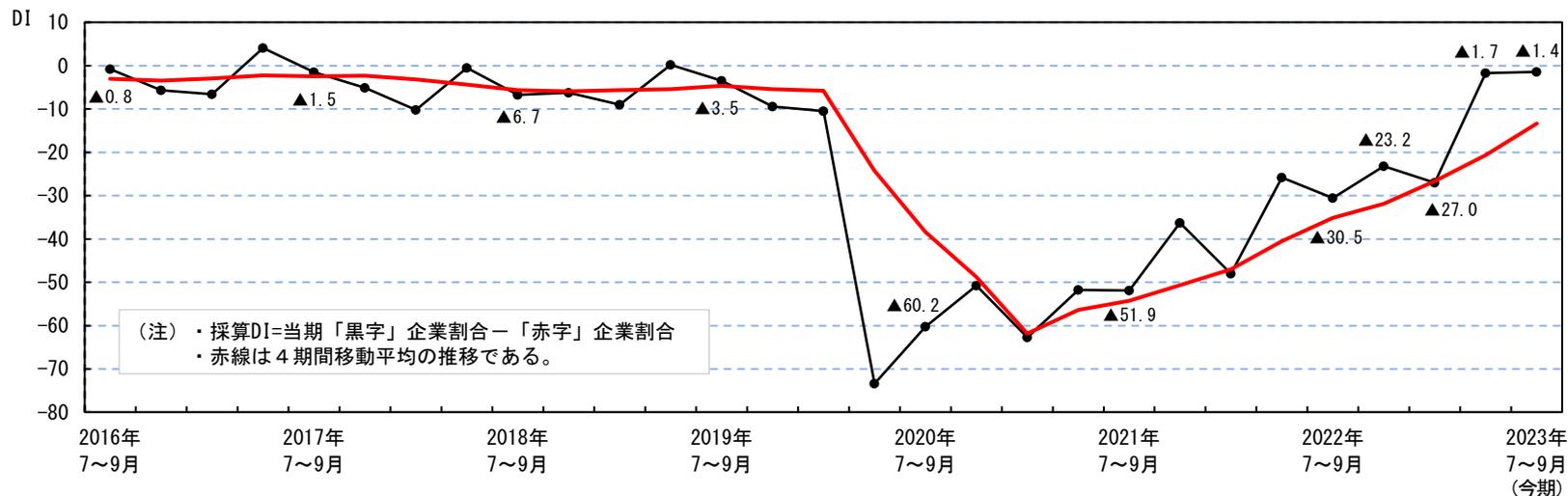
図表6 飲食業 売上DIの推移

凡例	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月 (今期)	2023年 10~12月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 10.6	3.8	▲ 1.7	40.9	39.0	32.7
そば・うどん	▲ 11.5	8.5	▲ 7.1	43.3	46.2	41.2
中華料理	▲ 18.7	6.3	▲ 10.7	36.5	38.8	28.9
す し	▲ 8.6	▲ 1.7	▲ 5.5	40.7	36.1	22.8
料 理	▲ 13.4	18.0	3.2	63.5	36.6	32.5
喫 茶	▲ 13.7	7.1	5.1	37.7	32.7	27.5
社 交	▲ 32.2	▲ 15.8	▲ 12.1	25.0	32.7	31.2
その他飲食	▲ 6.1	6.4	6.6	43.5	43.1	36.9

3. 採算

○ 採算DIは、前期からマイナス幅が0.3ポイント縮小し、▲1.4となった。

図表7 採算DIの推移（全業種計）



図表8 業種別 採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 19.1	▲ 11.6	▲ 10.9	7.0	6.7
水 雪	▲ 29.6	▲ 40.0	▲ 43.6	▲ 5.4	27.8
理 容	▲ 6.2	▲ 13.4	▲ 14.3	1.4	5.3
美 容	▲ 18.3	▲ 16.2	▲ 18.1	▲ 0.9	▲ 7.7
映 画 館	▲ 20.0	▲ 26.2	▲ 19.4	4.9	▲ 15.8
ホテル・旅館	▲ 32.8	▲ 2.8	▲ 18.6	12.8	16.4
公衆浴場	▲ 21.8	▲ 17.0	▲ 9.1	0.9	▲ 3.6
クリーニング	▲ 32.1	▲ 25.1	▲ 45.9	4.2	▲ 8.4

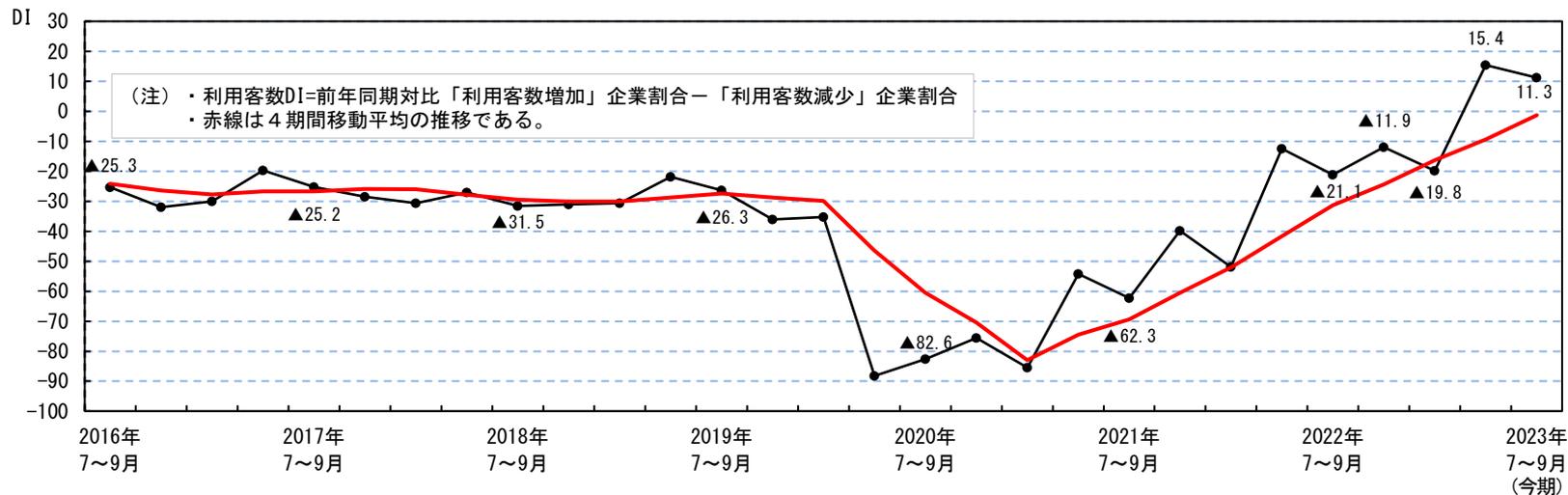
図表9 飲食業 採算DIの推移

凡例	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 43.4	▲ 31.6	▲ 34.1	▲ 7.1	▲ 3.6
そば・うどん	▲ 16.9	▲ 2.6	▲ 25.1	7.4	10.9
中華料理	▲ 33.5	▲ 23.8	▲ 23.9	▲ 7.4	2.0
す し	▲ 38.3	▲ 28.3	▲ 29.3	▲ 1.1	▲ 3.9
料 理	▲ 52.8	▲ 42.9	▲ 42.7	▲ 4.8	▲ 12.2
喫 茶	▲ 42.0	▲ 32.7	▲ 31.8	▲ 9.7	▲ 1.3
社 交	▲ 69.0	▲ 57.9	▲ 53.5	▲ 31.2	▲ 23.8
その他飲食	▲ 46.0	▲ 32.7	▲ 32.9	▲ 4.2	▲ 0.4

4. 利用客数

○ 利用客数DIは、前期から4.1ポイント低下し、11.3となった。

図表10 利用客数DIの推移（全業種計）



図表11 業種別 利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 13.2	▲ 9.0	▲ 8.2	1.9	▲ 12.1
水 雪	11.1	▲ 1.8	▲ 5.5	10.7	44.4
理 容	▲ 31.7	▲ 35.7	▲ 39.7	▲ 14.4	▲ 12.3
美 容	▲ 32.1	▲ 36.0	▲ 37.8	▲ 13.2	▲ 16.6
映 画 館	40.0	21.3	12.9	50.8	▲ 1.8
ホテル・旅館	43.3	54.7	32.4	56.7	50.3
公衆浴場	▲ 32.7	▲ 17.9	▲ 4.5	7.1	▲ 1.8
クリーニング	▲ 34.7	▲ 25.5	▲ 47.1	▲ 2.3	▲ 7.7

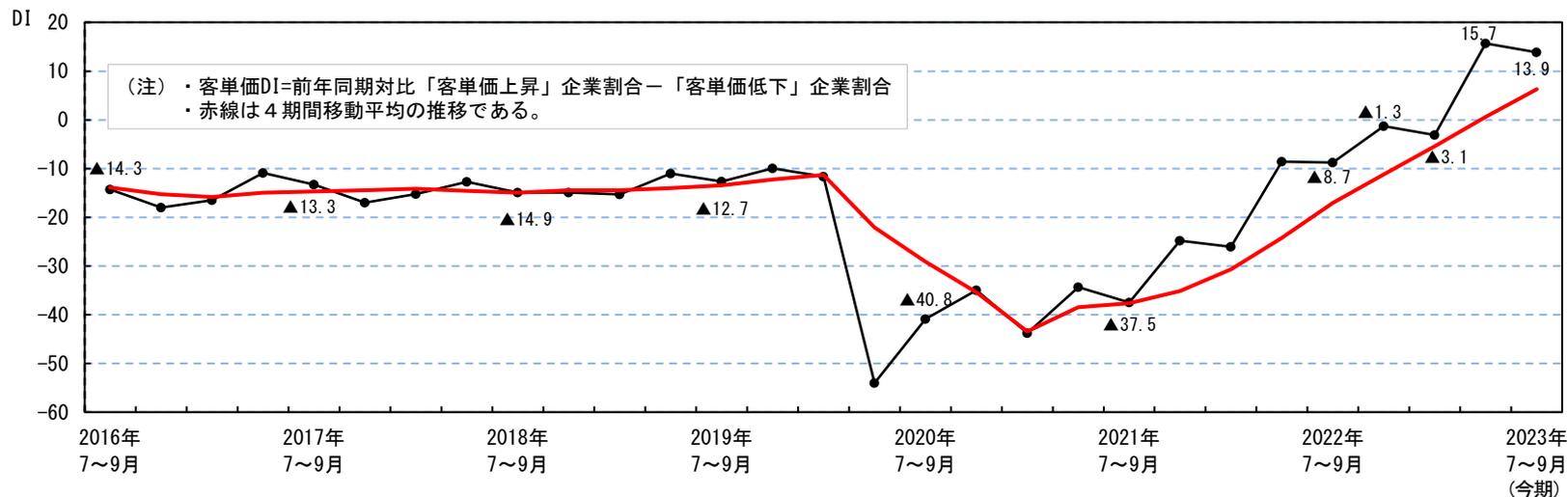
図表12 飲食業 利用客数DIの推移

凡例	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 23.8	▲ 4.6	▲ 13.8	31.8	28.0
そば・うどん	2.7	▲ 2.6	▲ 20.8	34.2	37.9
中華料理	▲ 19.4	▲ 6.9	▲ 17.6	28.4	22.4
す し	▲ 29.1	▲ 10.4	▲ 13.3	30.2	23.3
料 理	▲ 23.6	17.3	▲ 7.3	51.6	30.1
喫 茶	▲ 24.2	▲ 11.6	▲ 11.5	30.5	20.3
社 交	▲ 47.7	▲ 27.0	▲ 28.8	13.7	13.2
その他飲食	▲ 23.4	4.0	▲ 5.4	35.8	36.7

5. 客単価

○ 客単価DIは、前期から1.8ポイント低下し、13.9となった。

図表13 客単価DIの推移（全業種計）



図表14 業種別 客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 21.7	▲ 7.1	▲ 8.8	9.5	▲ 1.3
水 雪	▲ 3.7	▲ 12.7	▲ 10.9	0.0	38.9
理 容	▲ 18.6	▲ 14.9	▲ 16.4	0.7	1.7
美 容	▲ 10.3	▲ 9.5	▲ 11.0	5.4	▲ 1.1
映 画 館	10.0	3.3	6.5	13.1	19.3
ホテル・旅館	30.9	45.3	33.0	50.8	53.6
公衆浴場	▲ 4.5	4.5	▲ 1.8	14.3	13.5
クリーニング	▲ 22.5	▲ 25.1	▲ 31.7	8.5	0.0

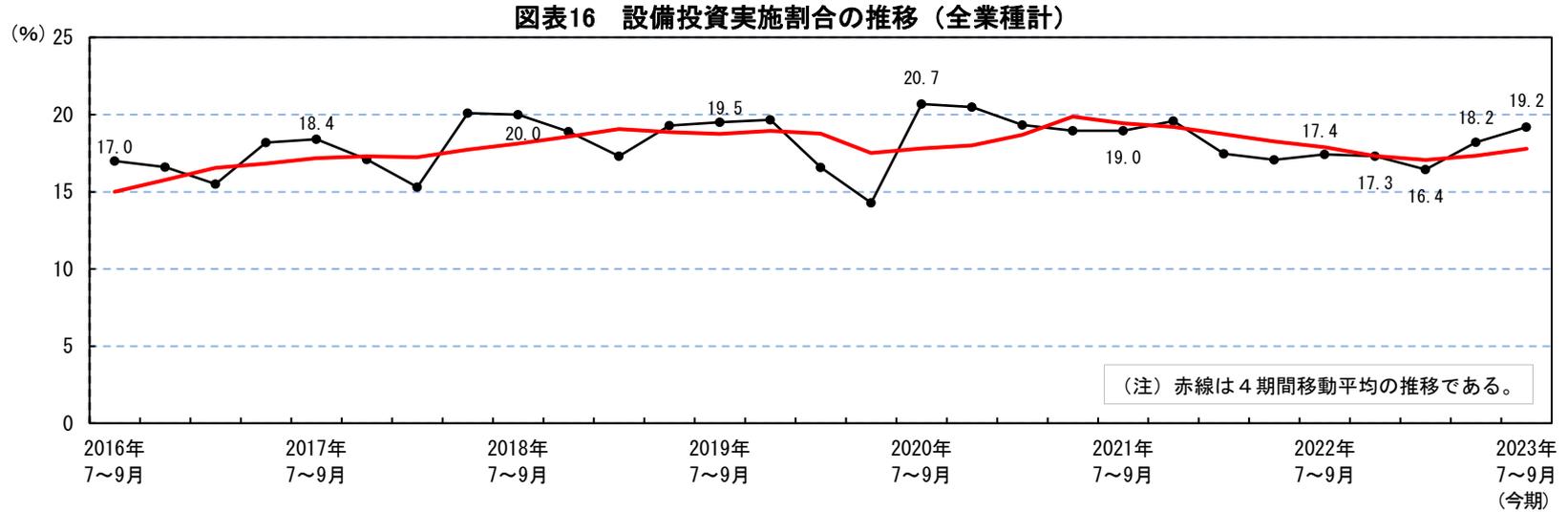
図表15 飲食業 客単価DIの推移

凡例	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 7.7	4.4	4.5	21.6	20.0
そば・うどん	14.2	10.1	5.5	31.6	33.0
中華料理	▲ 10.3	▲ 3.8	▲ 8.2	18.2	23.0
す し	▲ 17.7	2.9	▲ 0.6	19.2	13.3
料 理	▲ 7.1	13.5	8.9	25.4	24.4
喫 茶	▲ 3.7	5.8	12.2	26.0	26.1
社 交	▲ 19.6	▲ 6.1	▲ 4.0	5.9	1.5
その他飲食	▲ 8.2	7.1	10.8	24.1	21.6

II 設備投資の動向

1. 設備投資の実施状況

○ 今期（2023年7～9月）に設備投資を行った企業の割合は、前期から1.0ポイント上昇し、19.2%となった。



図表17 業種別 設備投資実施割合の推移（飲食業を除く） (%)

凡例	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月	2023年 7～9月 (今期)
食肉・食鳥肉	28.3	26.5	23.8	29.1	32.7
水 雪	11.1	21.8	20.0	16.1	5.6
理 容	8.3	8.5	6.9	9.3	10.3
美 容	10.7	10.6	10.3	12.1	10.9
映 画 館	23.3	26.2	33.9	32.8	36.8
ホテル・旅館	42.2	42.2	46.3	44.1	45.9
公衆浴場	34.5	41.1	35.5	43.8	39.6
クリーニング	15.3	17.1	21.2	18.9	18.4

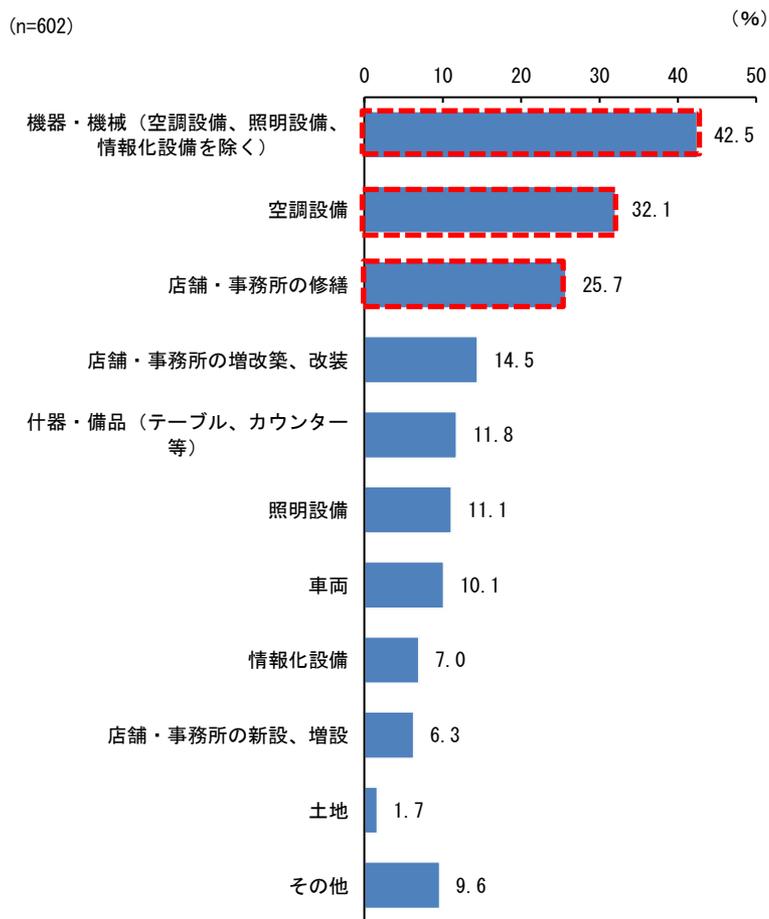
図表18 飲食業 設備投資実施割合の推移 (%)

凡例	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月	2023年 7～9月 (今期)
飲食業(全体)	17.0	15.6	13.6	15.6	18.0
そば・うどん	21.3	16.4	15.8	22.9	23.5
中華料理	18.7	15.6	11.3	14.2	17.8
す し	16.6	15.6	12.7	13.7	17.2
料 理	29.1	25.6	21.8	22.2	22.0
喫 茶	13.6	11.5	9.6	14.8	13.0
社 交	11.5	8.1	6.6	10.7	13.6
その他飲食	15.1	17.1	16.1	14.3	18.7

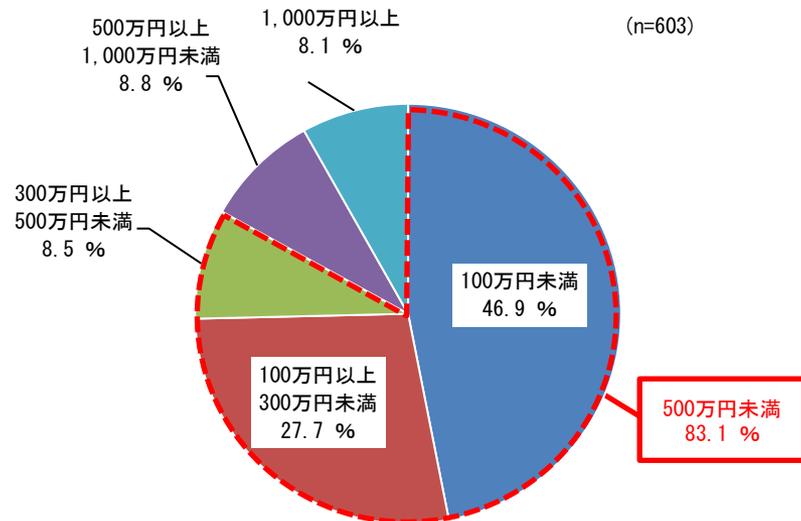
2. 設備投資の内容、設備投資金額、来期の設備投資計画

- 今期（2023年7～9月）の設備投資の内容は、「機器・機械（空調設備、照明設備、情報化設備を除く）」が42.5%と最も多く、次いで、「空調設備」（32.1%）、「店舗・事務所の修繕」（25.7%）の順となった。
- 今期の設備投資金額は、500万円未満が全体の8割超を占めた。
- 来期（2023年10～12月）の設備投資計画については、「実施予定あり」が13.5%となった。

図表19 設備投資の内容
(全業種計、複数回答(金額の大きい順に3つ以内))



図表20 設備投資金額（全業種計）



図表21 業種別 来期の設備投資実施予定割合
(飲食業を除く) (%)

凡例	2023年 10～12月期の予定
全業種計	13.5
食肉・食鳥肉	25.3
氷雪	11.1
理容	5.3
美容	6.8
映画館	29.8
ホテル・旅館	36.1
公衆浴場	27.9
クリーニング	10.3

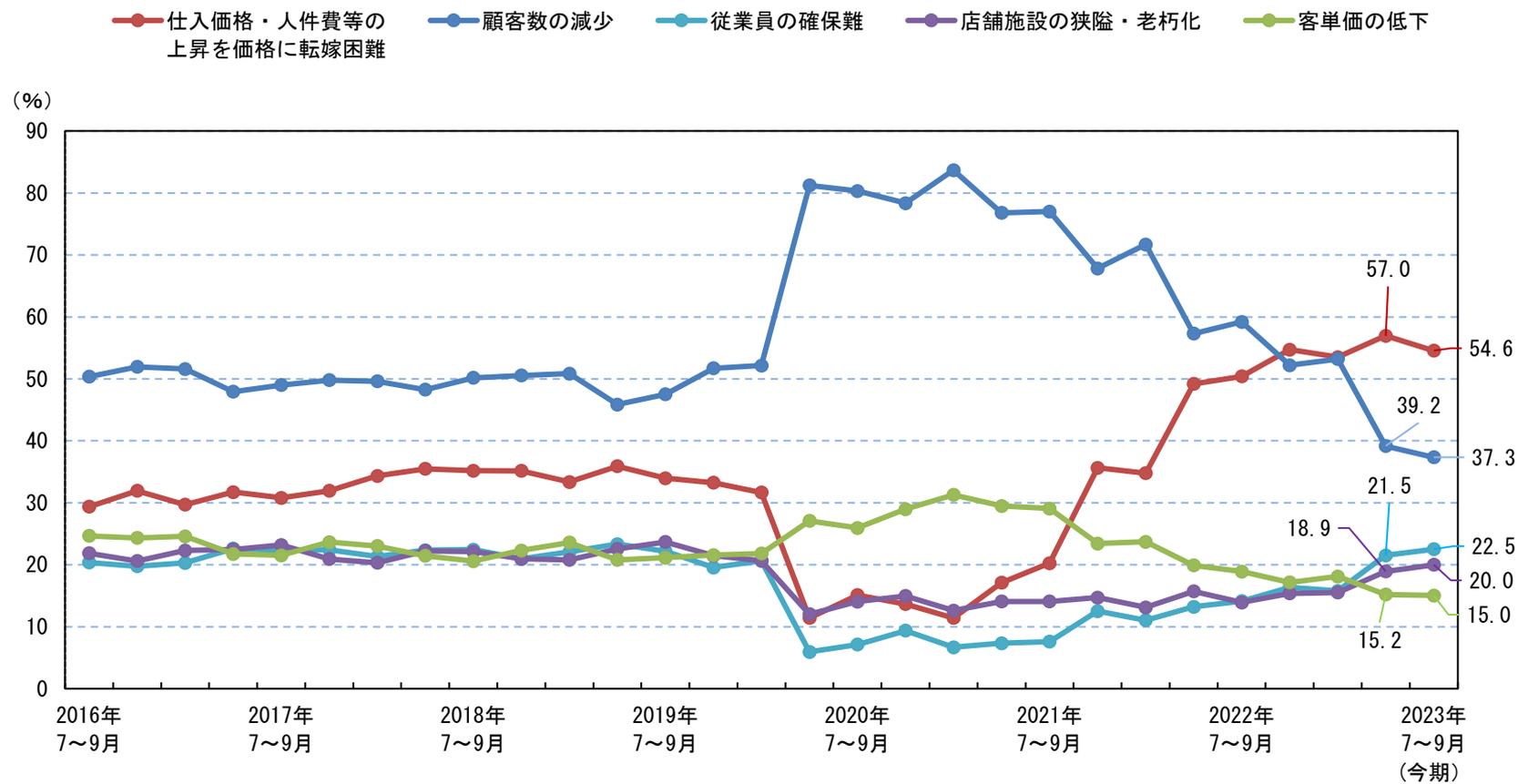
図表22 飲食業 来期の設備投資実施予定割合 (%)

凡例	2023年 10～12月期の予定
飲食業(全体)	12.7
そば・うどん	14.8
中華料理	11.8
すし	8.9
料理	22.0
喫茶	10.4
社交	6.8
その他飲食	14.8

Ⅲ 経営上の問題点

○ 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が54.6%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」(37.3%)、「従業員の確保難」(22.5%)の順となった。

図表23 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答（2つ以内））



図表24 業種別 主な経営上の問題点（2023年7～9月）

(%)

項目	仕入価格・人件費等の 上昇を価格に転嫁困難の	顧客数の減少	従業員の確保難	店舗施設の狭隘・老朽化	客単価の低下	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
全業種計	54.6	37.3	22.5	20.0	15.0	6.4	3.3	3.9	7.0
飲食業(全体)	67.5	31.5	27.0	16.0	12.3	6.9	3.9	2.7	4.8
そば・うどん	72.1	23.5	31.7	23.0	8.7	8.2	1.1	2.7	4.4
中華料理	66.4	24.3	23.0	24.3	11.2	10.5	3.3	3.3	5.9
すし	68.9	27.8	21.7	15.6	15.0	7.2	4.4	2.2	6.7
料理	67.5	31.7	35.0	20.3	9.8	3.3	4.1	1.6	3.3
喫茶	63.0	35.7	19.5	19.5	11.0	8.4	5.8	2.6	3.9
社交	58.3	56.3	25.2	5.8	15.0	3.4	3.4	3.4	3.9
その他飲食	71.1	26.0	29.7	12.8	13.0	7.0	4.4	2.6	5.1
食肉・食鳥肉	67.3	24.7	24.7	22.7	18.7	4.0	4.7	2.7	5.3
氷雪	53.7	29.6	18.5	20.4	13.0	16.7	0.0	11.1	1.9
理容	31.5	50.2	11.8	15.9	18.8	7.0	1.2	6.0	16.3
美容	32.4	51.6	16.8	17.3	21.7	5.7	3.7	4.6	9.6
映画館	56.1	47.4	14.0	36.8	3.5	5.3	7.0	7.0	3.5
ホテル・旅館	50.8	15.8	51.4	41.0	3.3	4.9	6.0	3.3	3.8
公衆浴場	44.1	35.1	9.9	51.4	5.4	10.8	0.9	4.5	7.2
クリーニング	57.9	46.7	11.1	20.3	25.7	3.1	1.5	4.2	4.6

(注) 複数回答（2つ以内）のため合計は100を超える。

Ⅳ 業況判断理由

今期：2023年7～9月 来期：2023年10～12月

(1) そば・うどん

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	群馬県	コロナの影響が収まり、客足が回復している。気温の高い日が多かったため、冷たい麺類のメニューが売上が伸びている。
	不変	山梨県	客足は回復してきているが、仕入価格が高騰し、収益を圧迫している。
来期	好転	福岡県	様々なイベントが開催されており、外国人観光客の来店が増加傾向にある。
	悪化	福井県	人手不足が深刻で、通常営業も手が回らなくなってきている。

(2) 中華料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	長崎県	コロナ禍から回復の兆しがみられることで、観光客が増えた。町中華ブームの追い風もあり、回復基調が続いている。
	悪化	和歌山県	中国の輸入食材を使った中華料理を提供しているため、輸送費や原価の高騰で収益悪化が続いている。元々の価格設定が高めなので、値上げもしづらい状況。
来期	好転	岩手県	連日の猛暑で夏場は客数が減ったが、来期は秋の観光・行楽シーズンに入るため、客数・客単価ともに上がるだろう。
	不変	福島県	コロナの影響は収まってきたものの、円安により輸入材料の価格高騰が続いており、多少売上が増加しても、利益は追い付かない。

(3) すし

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	北海道	コロナが5類に移行したこともあり、インバウンドを含めた道外からの観光客の客足が戻って来た。
	悪化	静岡県	客数は前年並みだが、夜のアルコール消費が減少し、客単価が低下している。加えて、材料費や光熱費が高騰しており、業況は厳しい。
来期	好転	岐阜県	自粛ムードのない年末に向けて、忘年会等の団体客の確保が大いに期待できる。
	悪化	埼玉県	物価の高騰による生活費の上昇から、外食を抑える傾向がみられ、売上は伸びないだろう。

(4) 料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	広島県	コロナ禍の影響は続いているが、5類に移行してから、夜の予約が増え始めている。冠婚葬祭関係の団体需要も回復してきている。
	悪化	大阪府	人手不足で団体予約の対応ができない状態のうえ、原材料価格の高騰により負担も増している。
来期	好転	三重県	忘年会シーズンを迎えるため、宴会予約が多少なりとも確保できる見込み。
	不変	埼玉県	最低賃金が年々上昇し、仕入価格も高騰したまま。コストの上昇が収益を圧迫しており、現状維持がやっとのところ。

(5) 喫茶

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	大阪府	ランチタイムだけではなく、夜も女性や若者のグループ客が戻ってきている。
	悪化	東京都	連日の猛暑で、外出自体を控える傾向から客足が遠のいた。また、仕入価格や光熱費の高騰も続き、二重苦の状態にある。
来期	好転	富山県	秋の行楽需要に加え、クリスマス・年末には例年通りお客さまが増える見通し。
	不変	奈良県	コーヒー豆、調味料などの仕入価格が上昇。さらに、光熱費の高騰が続いており、客足が戻ってきても収支トントンがいいところ。

(6) 社交

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	秋田県	夜の繁華街の人出は回復してきた。二次会でカラオケを楽しむお客さまが増えてきた。
	不変	沖縄県	前年度と比較したら良くなっているが、夜1時以降の客足はこれまでより大幅に減少した。また、タクシーもあまり走行していないため、利用客は不便さを感じているようだ。
来期	好転	愛知県	秋の行楽や観光で、人の動きが活発になるだろう。年末も、クリスマスや忘年会の需要が増えることを期待している。
	悪化	大分県	円安等によりウイスキーなどの輸入価格が高騰しており、在庫不足でお客さまのニーズに応えられない可能性がある。

(7) その他飲食

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	鹿児島県	コロナ前のように、出張や旅行など人の動きが活発になっており、売上の増加につながっている。
	悪化	石川県	電気代・ガソリン代・仕入価格が高騰していることに加え、この夏の猛暑により、昼夜問わず人の動きは全くなかった。
来期	好転	栃木県	夜の飲食客が増え、団体予約も入るようになってきた。忘年会等の大口需要も期待できる。
	不変	静岡県	客足は戻ってきているが、材料費の高騰などもあり、現状維持で精一杯である。

(8) 食肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	兵庫県	取引先の飲食店の客足が回復したことから、卸売部門の売上が増加した。
	悪化	北海道	原材料費の高騰により利益率が低下し、卸売部門だけでなく小売部門も利益確保が厳しくなっている。
来期	好転	埼玉県	秋になって暑さが収まり、野外用のバーベキューセット等の売上が伸びることで、単価アップに期待ができる。
	悪化	千葉県	卸売先の飲食店では仕入先を見直す動きがあり、さらなる価格転嫁は難しい。小売先も価格に敏感なお客さまが増えているようで、先行きは厳しくなるだろう。

(9) 食鳥肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	広島県	卸売部門の売上が好調に推移しており、店頭販売も含めて、コロナ前の水準まで回復してきている。
	悪化	愛知県	猛暑により、買物等で外出するお客さまが減少した。また、仕入価格や光熱費の高騰で、利益確保も難しくなっている。
来期	好転	東京都	イベントや行事がコロナ前の水準で開催される予定で、唐揚げや焼き鳥などオードブルの注文が入り始めている。
	悪化	岐阜県	原材料費の高騰がいつまで続くのか不透明感が増すなかで、利益を確保することが難しい。

(10) 氷雪

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	東京都	お祭りや地域のイベントなどがコロナ前の水準で開催され、氷の需要が増している。
	好転	広島県	コロナが落ち着きをみせ、飲食店からの受注が増えている。夏祭り等のイベント需要も復活している。
来期	不変	高知県	夏場のイベントが戻ってきたが、売上はほとんど伸びていない。来期も業況は変わらない見通し。
	悪化	滋賀県	秋のイベントに向けた需要を期待している。一方で、飲食店向けの需要は、販売先の減少もあり厳しいままだろう。

(11) 理容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	千葉県	各種イベントが増え、外出する機会が多くなったことから、お客さまの来店サイクルが早くなった。
	不変	大分県	コロナが落ちつき、客足は戻りつつあるが、物価高のため理容の支出を抑える動きが見られる。
来期	好転	岡山県	過ごしやすい秋の気候を迎え、外出機会が増えることで、理容の需要に期待が持てる。
	不変	愛媛県	物価高騰の影響が続く見通しで、過ごしやすい季節になっても客足の戻りはあまり期待できない。

(12) 美容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	富山県	旅行やイベントなどで外出機会が増えたため、パーマやカラーの希望が増え、客単価が大幅に上昇した。
	不変	滋賀県	去年に比べ客数はやや多くなったが、物価高で家計負担が増えたことで、客単価は下がりつつある。
来期	好転	山梨県	コロナが5類に移行してから、安定した予約が確保できている。来期は、秋のイベント参加等により需要が増す見通し。
	不変	秋田県	ニーズは増えているものの、物価が上昇したことによる節約志向がみられ、美容室に使うお金も減っていくのではないかと危惧している。

(13) 映画館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	香川県	夏休みのヒット作品に恵まれ、家族や友人でのグループ鑑賞が増えてきている。
	悪化	山梨県	来館客数の減少が止まらない。コロナ禍の行動制限を経て、インターネットを介したサブスク利用者の増加が、少なからず影響している。
来期	不変	鹿児島県	お客さまは徐々に戻ってきたが、冬場になり、コロナとインフルエンザの同時流行の予報等が報道されれば、客足が落ち込む可能性がある。
	悪化	富山県	来期は評判作品が少ないことに加え、行楽シーズンを迎え、アウトドア行事等に客足が流れるのではと心配している。

(14) ホテル・旅館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	宮城県	コロナの5類移行や、全国旅行支援の効果もあり宿泊客が増加した。インバウンドも増加しており、業況は好転している。
	不変	沖縄県	観光客は増加しているが、人手不足のため予約の受入れを抑えないと対応が出来ない状況。
来期	好転	島根県	来期は観光のトップシーズンで、宿泊予約も順調に伸びている。秋冬のインバウンド需要にも期待したい。
	不変	兵庫県	物価や人件費の上昇が続いており、紅葉シーズンや年末に売上が確保できたとしても、収益面は厳しい状態が続くだろう。

(15) 公衆浴場

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	石川県	コロナが5類に移行してからは、固定客以外にも部活帰りの学生や観光客の利用が少しずつ増えている。
	悪化	山口県	燃料費の高騰に、売上が追い付いていない。猛暑で気温が上昇し、入浴客数も減っている。
来期	不変	神奈川県	サウナを利用する若者客が増え、収入は安定してきているが、光熱費等がかさんでおり、トータルでは変わらない。
	悪化	愛媛県	従業員不足で、営業時間や定休日等の調整が必要。老夫婦だけの経営は厳しい。

(16) クリーニング

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	茨城県	各種イベント・お祭りなどが再開されたことに伴い、人々の外出が増え、おしゃれ着を着る機会も増えたことからクリーニング需要が高まった。
	不変	新潟県	売上はやや好転したが、光熱費や仕入価格の高騰により利益率が下がっており、現状維持で精一杯。
来期	好転	香川県	行楽の秋を迎え多くの人が出ると、クリーニング需要が増えるだろう。お祭りなどのイベントに伴う、浴衣や法被などの季節的な需要も期待できる。
	不変	神奈川県	秋口からクリーニング需要は増加する見通したが、ガス・電気料金や石油等の価格が高騰しているため、現状維持で精一杯。